

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所〔担当：松本・澤村〕

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和7年度 病害虫発生予察情報 技術情報第2号

令和7年8月4日

島 根 県

水稻 斑点米カメムシ類の発生状況について

水稻斑点米カメムシ類の発生が平年に比べて多くなっています。すでに出穂した一部のほ場では、カメムシ類の高密度発生が認められています。また、イネカメムシの発生も認められます。今後、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除および雑草管理をお願いします。

記

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 7月下旬に実施した早生品種ほ場でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は68.3%（平年56.7%）、平均捕獲虫数は5.2頭/20回振り（平年4.3頭/20回振り）（図1）となり、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメ（図3）であるもののアカヒゲホソミドリカスミカメの発生も認められる。加えて、ホソハリカメムシやイネカメムシ、クモヘリカメムシなどの大型カメムシ類の発生も確認されている（図2、3）。
- 2) 7月第5半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は352頭（平年189.2頭）と平年に比べて多い。
- 3) イネカメムシ成虫の発生ほ場率は14.6%、平均捕獲虫数は0.51頭/20回振りであった。また幼虫の発生も認められており、本種幼虫の発生ほ場率は31.7%、平均捕獲虫数は1.8頭/20回振りであった。
- 4) 中国地方1か月予報（7月31日広島地方気象台発表）によると、気温は平年に比べて高くなる確率が70%と本種の発生を抑制する要因とはならない。

2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 粉剤、液剤による防除は、イネカメムシについては出穂期とその10日後に行う。その他の斑点米カメムシについては、穂揃期の3日後とその10日後に行う。イネカメムシと他の斑点米カメムシが混発している場合は、イネカメムシの防除時期にあわせて散布を行う。その後、ほ場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。
- 2) ほ場内のヒエ類などはカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。

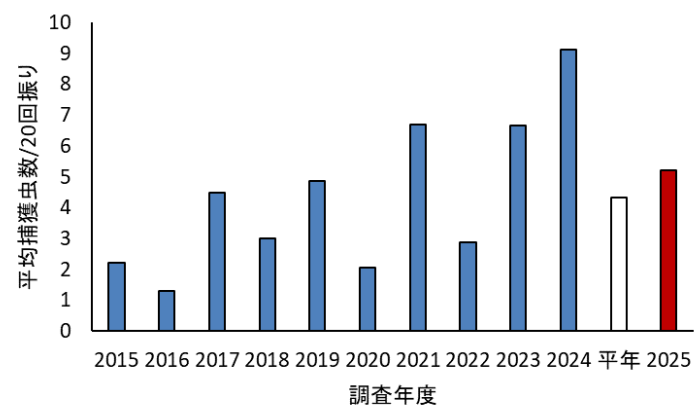


図1 斑点米カメムシ類（成幼虫）の平均捕獲虫数（水田 20 回振り 7 月下旬調査）

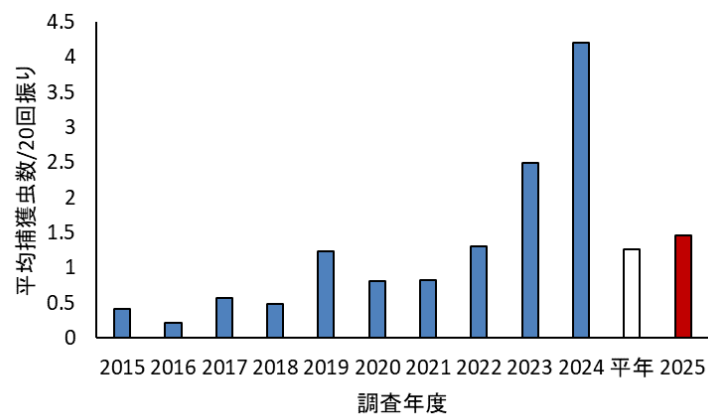


図2 大型の斑点米カメムシ類[※]の平均捕獲虫数（水田 20 回振り 7 月下旬調査）
 ※ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ



図3 各種斑点米カメムシ類（左から アカスジカスミカメ ホソハリカメムシ
 イネカメムシ クモヘリカメムシ）